



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
8/10 (月)	+ 200	▲ 82,000	▲ 81,800	国庫短期証券発行償還 (3M・6M)	国債補完供給 + 500		日：金融政策決定会合における主な意見 (7月30・31日分) 国際収支 (6月) 貿易収支 (6月)
8/11 (火)				山の日			
8/12 (水)	+ 500	+ 2,000	+ 2,500				米：CPI (7月)
8/13 (木)	+ 500	▲ 8,000	▲ 7,500	国債発行 (物連10年) 源泉所得税揚げ			日：国内企業物価指数 (7月) 米：PPI (7月) 欧：ユーロ圏鉱工業生産 (6月)
8/14 (金)	+ 500	+ 78,000	+ 78,500	年金定時払い			米：小売売上高 (7月) 欧：ユーロ圏GDP (2Q)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比8兆500億円減少の430兆200億円から始まった。その後、税揚げや国債買入オペ等の要因により増減し、7日は418兆8,500億円 (速報) で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.977%から始まった。その後、一部金融機関による試し取りが行われた影響等により、0.977%~0.980%のレンジで推移した。

ターム物は1W~3W物0.982%~1.150%のレンジ、1M~3M物1.040%~1.260%のレンジで出合いが見られた。

来週の予定は、国内では10日に日銀金融政策決定会合における主な意見 (7月30・31日分) の公表、13日に国内企業物価指数 (7月) の公表、海外では12日に米CPI (7月) の公表、14日にユーロ圏GDP (2Q) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.950 ~ 0.978
1M	1.05 ~ 1.10
2M	1.10 ~ 1.25
3M	1.20 ~ 1.30
6M	1.30 ~ 1.50

<レボ>

足許GCは週を通して1.000%~1.005%の狭いレンジでの出合いとなった。買い入れオペや短国の発行の影響もほとんど見られず、水準に変化はなかった。

SC取引は2年484~486回債、5年180~185回債、10年361~372、379~383回債、20年194~196回債、30年87~90回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.90台
CP 3M (a-1+)	1.2 ~ 1.3

<CP>

今週の入札発行総額は1兆6,860億円で、週間償還額の1兆5,500億円を上回った。発行残高は、先週末時点の26兆507億円から、8月6日時点で25兆7,464億円へと減少した。発行市場では、ゴム製品・小売業・建設業をはじめとする幅広い業種で、大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で1.0%台から1.1%台、3ヶ月物で1.2%程度から1.3%台と、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約9,145億円となっている。発行市場は、祝日により営業日数が少なく、企業の夏季休業が重なることから、落ち着いたマーケットが見込まれる。

発行レートについては、日本銀行による利上げ継続姿勢が示されていることから、引き続き水準を探る展開が続くだろう。

<TDB>

6日の6M (第1398回債) の入札は、最高落札利回り1.1833% (前回債1.0217%)、平均落札利回り1.1753% (前回債1.0118%) となった。
7日の6M (第1399回債) の入札は、最高落札利回り1.0738% (前回債1.0113%)、平均落札利回り1.0665% (前回債1.0036%) となった。
来週の入札は14日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。